
運命だから

エンド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命だから

【Nコード】

N9955A

【作者名】

エンド

【あらすじ】

いつもどおり、プーさんごっこをしていたら、謎の黒髪美少女に窓ガラスを割られました。俺の窓ガラス返しやがれ。

第一話：俺の窓ガラス返せ

ゆるぎないもの。

かけがえのないもの。

てばなしたくないもの。

たいせつなもの。

だきしめるぬくもり。

まもるべきおもい。

どうしようもないのにつしなたくないもの。

何も知らない少年達が、その全てを手に入れたとき

物語は静かに、音も立てず崩れ始める――。

レイはいつものように、ソファーにねっころがりながら炭酸飲料を飲み、テレビを見ている。

普通、親に怒られてもおかしくないような体勢なのだが、レイを叱るものは居ない。

まあ、それもそのはず。彼の両親はとつくの昔に死んでるのだから。しかしその悲劇を、レイは自分で『死んじやったもんはしゃーねーわ』と割り切って、一人で図太く生きている。ちよつと位は悲しめ。

そうこうしている間に寝る時間の10時になり、レイはふあゝ、と欠伸を一つしてテレビを消し、炭酸飲料を冷蔵庫にしまった。その後、布団を何枚も重ねてそこに自分の体を挟ませて

「ふあゝ、ふあゝ、挟まっちゃったでふうゝ。抜けないでふうゝ。でゆふふふふふふふ」

と叫び、手足をばたばたさせる、という謎の行為をやっている。

ちよつとやばいのではないか？ ……とりあえず、両親が居ない寂しさを紛らわせるためにこのような奇行をやっているということにしよう。

そうでないと本当にやばい。色んな意味で。

一通り奇行をくりかえし、飽きてきたのか布団を床に敷いて、寝

ようとした。

が、そのとき。

パリーーン！！！！！

耳を劈くような音とともに彼の部屋の窓ガラスが割れ、破片が四方八方に飛び散る。

秘儀・布団シールドをしていなければレイにも破片があたっていたであろう……。危ないところだった。

ワケがわからないまま、そつと布団シールドをよこにどけてガラスの方向を見ると、いつのまにかそこには、黒髪の美しい少女が立っていた。

第一話・俺の窓ガラス返せ（後書き）

がんばります

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9955a/>

運命だから

2010年10月10日03時22分発行